

地対協コーナー

広島県地域保健対策協議会の役員も今年度より新体制となっております。

新体制で臨む今期から2年間は、医療・介護における節目である平成30年度に向け非常に重要な年となりますので、役職員ともに同じ目標に向かい会務の推進に努めたいと思います。会員の先生方におかれましては、引き続きのご協力・ご支援をお願いします。

さて、今号は、5月に開催された各種委員会報告をお届けしますが、広島県では5大がん以外に甲状腺がん、前立腺がんの連携パス(わたしの手帳)を作成しました。医療情報を効率的に共有するツールとして、地域包括ケアシステムのもと、連携パスの活用が進むことが望まれます。今後もさまざまな仕組みづくりを医療の専門家集団として提案できればと考えます。

活動や運営にあたり、皆さまのご要望やご意見などがございましたら、遠慮なく、事務局までお寄せください。また、過去の委員会活動などは、地対協ホームページ(<http://www.citaiky.jp/>)へ掲載していますので、アクセスをお待ちしております。

○終末期医療のあり方検討専門委員会打合せ

日時：平成28年5月9日(月) 19時00分

場所：広島県医師会館601会議室

委員長：本家 好文

平成27年度に実施のACP啓発モデル事業について、実施6地区からの報告と、今後の普及にあたっての課題や効果的な啓発の方策について意見交換を行った。普及啓発活動の一環として、5月29日(日)、広島県医師会館にて医療・介護・福祉・行政関係者を対象にモデル事業報告会(広島県医師会速報6月25日号既報)を開催する。

報告・協議事項

(1) 手引き配布状況について

今年度改訂した第2版の手引きは、平成27年12月から会議当日まで12,436部配付している。広島県医師会速報付録でも過去3回出しており、初版から全て累計すると約48,000部にのぼる。

(2) 手引き・心づもり等資料に関する申請について

手引き改訂後、手引きの使用・引用等に関する問合せ件数が増加したため、本年2月より地対協ホームページに問合せフォームを設け、対応にあたっている。これまでに7件(県内2件、県外5件)の申請があり、内容としては、学会での配付・使用、発行媒体への引用などであった。

(3) モデル事業実施報告と報告会の開催について

昨年度6地区(呉市、福山市、因島、安芸地区、佐伯地区、広島市東区各医師会)で実施のモデル事業報告と事業検証を行った。

実施・啓発方法やアンケートの結果については、概ねいずれの地区も同様の結果であったが、

独自の取り組みとして、ACPの実践例を収集している地区や民生委員と連携した普及を行っている地区、在宅での今後の方針決定の際、活用している地区などがあった。

今後の課題として、医師への普及啓発や実務的な運用の流れの検討、医療従事者に加え、民生委員や地域包括支援センター、女性会や自治会など地域を巻き込んだ啓発、さらには普及啓発に必要な知識・情熱をもった人材の育成などが挙げられた。

最後に、5月29日(日)、モデル事業の実施報告会を開催し、今後の方策についてディスカッションを行う予定である旨告知した。

○監事会

日時：平成28年5月13日(金) 19時00分

場所：広島県医師会館601会議室

平成27年度の広島県地域保健対策協議会活動について報告後、一般会計及び特別会計の収支決算状況など、証憑書類・決算書・総勘定元帳・預金通帳に基づき監査を行った。

報告・協議事項

担当役員が、本年度で48年目の活動を迎える地対協活動の事業目的や平成27年度の広島県地域保健対策協議会の委員会活動として、13委員会4WGの活動状況を組織図や成果一覧表等を用いて報告した。平成27年度活動も、①各圏域との連携強化、②広報活動の充実、③広島県への意見具申、④関係団体との役割分担の4つの目標

を掲げ、それぞれ委員会活動を展開し、各種の会議、打合せ、研修会講習会等を計58回開催した。

前述の目標の一つである、「②広報活動の充実」では、広島県医師会速報の毎月15日号を通じて、「地对協コーナー」として、委員会活動や各種の成果物を広く会員に周知した。具体的な成果物として、心筋梗塞手帳や各種わたしの手帳(胃がん・大腸がん・内視鏡・肺がん・肝がん・乳がん・C型肝炎)、胃がん・大腸がんの一次検診及び精密検査結果報告に係る県標準様式やACPの手引き、ダニ類媒介感染症リーフレットなどを作成している。

引き続き、一般会計及び特別会計の収支決算状況など、一連の内容を説明後、広島県地域保健対策協議会監事4名が、証憑書類・決算書・総勘定元帳・預金通帳に基づいた監査を行った結果、平成27年度一般・特別会計収支決算は正確妥当であると承認を受け、会計監査を終了した。

なお、平成27年度収支決算については、8月1日(月)に開催予定の広島県地域保健対策協議会定例理事会に付議する予定である。

○がん対策専門委員会

日 時：平成28年5月16日(月) 19時00分

場 所：広島県医師会館303会議室

委員長：杉山 一彦

委員会内に設置の肺がん早期発見体制各WGと放射線治療連携推進WGの活動状況を報告後、広島県がん医療ネットワーク(以下、NW)の見直しについて意見交換した。委員会活動として、肺がん検診結果報告に係る県標準様式の作成や胃内視鏡検診実施体制検討WGを設置し、検診の精度管理体制・実施条件などを整理することとした。また、甲状腺がんと前立腺がんのパス(わたしの手帳)についても運用に向け取り組みを開始することとした。

報告・協議事項

(1) 肺がん早期発見体制WGと放射線治療連携推進WGの活動状況について

肺がん早期発見体制WGでは、医師や医療従事者向けの講習会と診療放射線技師向けのワークショップを開催した。放射線治療連携推進WGでは、放射線治療に関する施設連携や実態調査の結果を報告した。

(2) 肺がん検診結果報告に係る県標準様式について

がん検診・精密検査の精度の均てん化、市町等への精密検査結果の適切なフィードバックを目的に、本委員会内に適宜WGを設置し、乳がん及び子宮頸がん、胃がん、大腸がん検診の報告様式を作成した経緯がある。これらは、特に個別検診において未把握率の改善と一定の効果が認められることから、肺がん検診に係る様式を作成することとした。

(3) 「がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針」の一部改正について

標記指針が一部改正されたことから、市町の実施する対策型検診における胃がん検診の方法として、現行の胃部エックス線検査に加え、胃内視鏡検査が示された。今後、各市町が胃内視鏡検査を導入するにあたり、県内統一の精度管理体制の基準を実施主体の市町に示す必要があるため、本委員会内に「胃内視鏡検診実施体制検討WG」を設置し、対応することとした。

(4) 「広島県がん医療ネットワーク」について

一定の基準を満たす医療施設等が連携した「広島県がん医療NW」は、平成24年度までに5大がんすべての医療NWが構築されたが、状況の変化などにより、5大がんすべてにおいて横断的な見直しの必要性が指摘された。検討のポイントは、フォローアップ治療施設に関する事項、がん登録に関する事項、相談支援体制に関する事項、緩和ケアに関する事項、胃がんの医療体制における「内視鏡検査」に関する事項であった。

(5) わたしの手帳作成について(甲状腺がん・前立腺がん)

甲状腺がんと前立腺がんの「わたしの手帳」の作成に向け、各WGにて検討した案について、まずは運用を開始することとした。

○医師不足対策専門委員会 内科ワーキング会議

日 時：平成28年5月24日(火) 18時30分

場 所：広島県医師会館303会議室

新専門医制度における内科領域のプログラム策定に向け、関係施設間で研修プログラム申請状況の共有を行うとともに、地域医療の観点からプログラムに必要な施設が漏れていないかの検証・調整を行うため意見交換を行った。

報告・協議事項

(1) 新専門医制度に係る県内の検討体制について

平成29年度から開始される新専門医制度については、厚生労働省より示された「専門研修プログラムの認定に向けた調整方針」に基づき、本県では、県地对協「医師不足対策専門委員会」を協議の場としてプログラム基幹施設及び関係団体の関係者の下で議論を進めていくこととした。

当面の取り組みとして、研修プログラム情報の共有、プログラム申請状況の確認、専攻医の募集や配置などの制度運用に係る意見交換、新専門医制度の導入による県内への影響などに係る検討を予定している。他の診療科と比較し、規模・対象その他において県内への影響が大きいことなどから先行して議論が進められている内科領域については、昨年度まで広島県行政が主体となって開催していた関係施設会議を上記委員会のワーキング会議と位置づけて継続することを確認した。

(2) 内科研修プログラムの申請状況について

内科領域の専門研修プログラムについて、各基幹施設の連携施設、指導医数、募集希望数といった申請状況を共有し、各基幹施設から募集希望数算定の背景、検討状況などが報告されたほか、広島大学の内科系医局からは科ごとのプログラム研修方針が説明された。専攻医数募集数は、全国で過去実績値の1.2倍以下となるよう調整される方針であるが、この点に関しては、広島県も現状を上限とされるか否か現状不明であるとの発言があった。

また、委員の総意として、広島県内で専門医プログラムを専攻する医師数を増やすことが最重要であるとの認識を共有し、早急なPR体制の充実が提案された。各委員からも同様の提案があり、今後、広島県医療介護人材課、広島県地

域医療支援センターが中心となり、広島大学各
科関係者とも相談の上で可及的速やかに専門医
研修の広報・PR体制を整備することとした。

○脳卒中連携パスWG

日時：平成28年5月30日(月) 19時00分

場所：広島県医師会館701会議室

委員長：栗栖 薫

平成20年に策定した脳卒中連携パスの改訂に
向け、WGを設置し活動を開始した。現行の県
共通パスをもとに改版することを確認し、今後
は回復期、維持期を担当する職種の意見なども
反映することとした。

協議事項

(1) 脳卒中連携パスの改版について

各委員より、改版に向け地域の実情等につ
いて意見を求めたところ、「地域性を持って発展を
遂げ、運用されている地域もある。また実際に
運用する施設の数や施設で勤務する医療従事者
の人数を踏まえ、あまり多くの管理項目がある
と負担になる」、「システムありきで連携パスの
仕様を検討するのではなく、どのように運用す
るのか検討しながら進めることが重要だ」との
意見があった。

こうした意見や地域の運用状況を踏まえ、現
行の県共通パスをもとに改版することとした。

なお、回復期、維持期については、項目の精
査を行う必要があるため、委員を追加し対応す
ることとした。

また、県共通パスを改版し全県に展開した場
合に、誰のために、何のためにパスを運用す
るのかWGで引き続き検討することとした。

県地对協からの提供資料について

県地对協では以下の県内共通クリティカルパス、パンフレット、マニュアル等を作成しています。
ご入り用の際は下記事務局までご連絡ください。

【地域連携クリティカルパス】

- 乳がん患者さんのための「わたしの手帳 Ver.4」
- 肺がん術後患者用「わたしの手帳 Ver.2」
- 心筋梗塞・心不全 手帳 地域連携パス
- C型肝炎「わたしの手帳」 など

【パンフレット・マニュアル】

- 広島県のつつが虫病と日本紅斑熱について
- 予防接種の普及を目指して
- 医療従事者等における体液曝露事故後のHIV感染防止マニュアル
- ACPの手引 「豊かな人生と共に…」

【事務局】 広島県医師会地域医療課 電話：082-568-1511 Eメール：citaikyo@hiroshima.med.or.jp

※一部ホームページにて公開中

広島県 地对協

検索

